石坂　夢羽（いしざか むう）　由井第一小　3 年生

作品名：「天使のいる教室」を読んで

図　書：天使のいる教室

この本に出てくるあきこちゃんは小児がんでした。一年二組のクラスのみんなに元気をたくさんもらって遠足や運動会に出れました。でも、遠足ではさい後までみんなと歩けなかったり、運動会ではみんなと練習が出来なかったりしてかわいそうでした。具合が悪くて学校を休んでばかりなのに、クラスのみんなはあきこちゃんが大好きでした。それはいつもいるだけでまわりの人がやさしくなれる天使のような女の子だったからです。

同じクラスの大介君もお父さんが病気で亡くなったばかりなのでかわいそうでした。でも大介君は、遠足で不安そうなあきこちゃんにウサギをだっこさせてあげたり、保けん室で休んでいるあきこちゃんと一緒にお花を作って運動会のじゅんびをして楽しい気持ちにさせてあげて思いやりがあると思いました。本当は自分も辛いのに、病気のあきこちゃんのことを見守る大介君は強いと思いました。

サトパン先生は、楽しいことやうれしいことがあると病気を治す力が出ると教えてくれました。あきこちゃんが入院をすると、クラスのみんなの声を聞かせてあげるためにろく音テープを持っていきました。言葉のシャワーはすごいです。あきこちゃんは弱っていたけどみんなの声を聞いて、もう一度話せるようになったのできせきが起きたと思いました。きっとベットの中でも、みんなと一緒に教室にいるようなうれしい気持ちになったことが元気の力にかわったと思いました。その後、あきこちゃんはさい後の力をふりしぼってクラスのみんなにクリスマス会をしょうたいするお手紙を書きました。痛みや疲れが出てイライラして泣いてしまったけれど、みんなのために一枚一枚あきらめないで書けたのは、クラスのみんなのことが大好きだったからがんばれたと思います。全部書いた次の日にあきこちゃんは亡くなって本当の天使になってしまいました。また会えると思っていたクラスのみんなは、お手紙をもらってよろこんだばかりなのに、すぐ亡くなったことを知って悲しくてざん念だったと思いました。でも、あきこちゃんは病気で会えなくても、きっとお手紙の中でみんなに会っていたのかと思いました。お手紙をもらったみんなも、そんなあきこちゃんのことをずっとずっとわすれないで心の中で生きていくと思いました。

私は、夏休みに手術で入院をしました。その時にますいが合わず何十回も吐いて泣きたいくらい辛かったです。でも辛い時に、家族やかんごしさんがやさしい言葉をかけてくれたのでがんばれました。あきこちゃんは辛い治りょうをしてもみんなにやさしくできたのは、今まで苦しい時にみんなにたくさんやさしさや勇気をもらって、いっぱい「ありがとう」をしてきたからだと思いました。私も本に出てくるみんなのように思いやりがあるやさしい女の子になろうと思います。